



4 ペリー公園

公園内にあるペリー上陸記念碑は、日本の開国を求めて来航したアメリカ海軍提督ペリーが嘉永6年6月9日（新暦1853年7月14日）に久里浜海岸に上陸したことを記念して建てられたもので、除幕式は明治34年（1901）、ペリーの上陸と同じ日に行われました。碑文は伊藤博文の筆によるものです。

園内のペリー記念館内には、ペリー来航に関する歴史的資料や模型などが数多く展示されています。

ペリー記念館

☎046-834-7531 時9:00～16:30 休月曜日・年末年始



5 開国橋

ペリー公園の前から開国橋までは房総半島を望む砂浜です。久里浜港に出入りする東京湾フェリーの大きな姿や、沖合いに行く船を眺めることができます。

かつては住吉神社まで続く砂浜が海水浴客でにぎわいましたが、昭和20年に埋め立てられ、遠洋漁業の基地として栄えました。

開国橋の名前は、ペリー提督が上陸した地点に近いことから名付けられたようです。三浦半島最高峰の大楠山から流れる平作川は、場所により名を変えながら60余の橋を通り、開国橋で久里浜港に注いでいます。毎年7月のペリー上陸記念式典の時には、河口付近で花火大会が催され、大勢の見物客でにぎわいます。



昭和20年ころの開国橋

6 夫婦橋

開国橋から夫婦橋までは、平作川沿いの道です。夫婦橋の架橋は古く、砂村新左衛門による内川新田開発工事で造られた、水門の上につけられた橋を端緒としています。当時は、中州に両側から二つの橋が夫婦のように仲良く架かっていたことから、この名が付けました。久里浜駅側の橋のたもとには、内川新田開発工事の記念碑があります。



両岸から中州に橋がかかる夫婦橋

観光ボランティアガイドのおすすめ

くりはま花の国ハーブ園

首都圏最大級で130種3万株のハーブを四季を通じて楽しむことができます。

5月～7月に見ごろを迎えるラベンダーをはじめ、すがすがしい香りを胸いっぱい吸い込んでハーブの魅力を満喫できます。

散歩に疲れたら、ハーブを眺めながら入れる足湯「湯足里（ゆつたり）」（無料）があります。足湯のお湯には季節に合わせたハーブがブレンドされています。

☎046-833-8282

時9:00～18:00（4月～10月）、9:00～17:00（11月～3月）

休毎週月曜日と年末年始 料無料（ハーブ園も無料）



足湯「湯足里」



陸上自衛隊久里浜駐屯地

旧海軍通信学校を前身とする警察予備隊が発足した昭和25年に久里浜駐屯地は創設されました。昭和29年には陸上自衛隊通信学校となり、陸上自衛隊の通信電子・情報通信の中心地として発展してきました。

旧軍時代の建造物が残る敷地内には通信電子器材などを展示した「歴史館」があり見学（土・日・祝日を除く9:00～16:00）ができます。見学には3週間前までに申込書と名簿の提出が必要です。申込書などは久里浜駐屯地ホームページからダウンロードできます。

陸上自衛隊久里浜駐屯地広報班 ☎046-841-3300（内線213）
ホームページ <http://www.sig-s-jgsdf.jp/>



ヨコスカの遊び情報は「ここヨコ」で！

携帯情報サイト「ここはヨコスカ」

横須賀のお出かけ情報をいつでも、どこでも手軽にチェック！横須賀の観光スポットから最新イベント情報まで、情報満載の携帯サイトです。サイト内からメルマガに登録すれば、観光・グルメクーポンなどさらにお得な情報も！（右QRコードからどうぞ）
URL:<http://www.cocoyoko.net/>



パソコンでチェックするならこちら！

横須賀の観光スポット、イベント情報を紹介するホームページです。今が旬のイベント情報や、横須賀でしか味わえないグルメ情報などミニより情報が満載！横須賀行くなら「ここヨコ」をチェック！
URL:<http://www.cocoyoko.net/>

ここヨコ 検索



■お問い合わせ 横須賀市コールセンター
TEL046-822-2500 <年中無休8:00～20:00>

横須賀集客促進実行委員会（横須賀市 横須賀商工会議所 京浜急行電鉄株）

事務局 横須賀市企画調整部企画調整課 TEL046-822-8124

平成21年3月発行

観光ボランティアガイドが足で調べた

三浦半島

きまみに

散歩

マップ付



京急久里浜駅



くりはま花の国ポピー園



ペリー公園



京急久里浜駅



京急久里浜駅から「くりはま花の国」を経て、幕末にペリーが上陸した久里浜海岸から川沿いに京急久里浜駅に戻る周遊コースです。約2時間（7km）



京急久里浜駅から旧道を通り浦賀に至る健脚コースです。「きまみに散歩 浦賀駅周辺」と併せてご覧ください。約1時間30分（5km）

横須賀集客促進実行委員会（横須賀市、横須賀商工会議所、京浜急行電鉄株）

1 久里浜天神社

江戸時代の初期、現在の久里浜一帯は三つの川が流れ込む大きな入り江で、入り江の奥の北久里浜付近までアシなどが生い茂る沼地が続いていました。この地を開墾したのは、宝六島新田（東京）や野毛新田（横浜）の開発を行った砂村新左衛門で、万治3年（1660）から7年間に渡る工事の末に内川新田を造りました。

久里浜天神社は、難工事が続いたため新左衛門が故郷の摂津国の福島天満宮（現大阪市福島区）を勧請したと伝えられています。



2 くりはま花の国

くりはま花の国は、緑豊かな自然とのふれあいを満喫できる花をテーマにした公園。春はポピー、秋はコスモスが咲き乱れ、シーズンになると市内外から多くの人々が訪れます。ポピー園、コスモス園の開園期間の最終日には「花摘み大会」が行われ、自由に花を摘んで持ち帰ることができます。園内のハーブ園では、四季を通じて130種約3万株のハーブを楽しむことができます。ハーブ園内には無料で利用できる足湯「湯足里（ゆつたり）」があります。

☎046-833-8282 乗用車600円/1回



3 住吉神社

祭神は中筒男命（なかつつのおのみこと）で海上守護の神様。創建時期は不明です。吾妻鏡・相模風土記などから約1,000年前と考えられています。

昔は栗濱（くりはま）明神といわれ、中世のころ、三浦半島一帯を支配していた三浦一族から水軍の守護神として信仰されていました。治承4年（1180）

衣笠合戦で敗れた三浦一族が源頼朝の後を追って安房に向かう際、この神社の山頂の松に旗を掲げて武運長久を祈ったといわれています（三浦大介旗掛けの松）。また頼朝の妻政子が二代将軍の頼家を出産するにあたり、馬を奉納したとされています。

